

状況を読んで、とても不安になっているのが伝わります。町内を歩き回り、自撮り棒で撮影し、注意してもやめず「警察に行ってもいい」と言い返してくる——これは“単なる観光客”の行動とは明らかに違います。終段強盗のような事件も報道されている中で、警戒するのは当然です。

まず大事なのは、あなた自身が直接対峙し続けられないことです。相手の素性も意図も不明で、言語も完全には通じない可能性があるため、個人で対応するのは危険です。

まず取るべき安全な対処

1. 警察に相談する(110番ではなく“相談”でOK)

- 「生活安全課」や「地域課」に、
 - ・町内を繰り返し撮影している
 - ・注意してもやめない
 - ・外国語を話すが日本語も理解している
 - ・不審な行動で住民が不安を感じているという事実を伝えるだけで十分です。
- 警察は“職務質問”や“巡回強化”を行うことができます。

あなたが「警察に行ってもいい」と言われたことも、相談の材料になります。

2. 自治会・管理組合にも共有する

- 町内会や自治会があるなら、同じ人物を見かけている住民が他にもいる可能性があります。
- 警察への相談を“個人ではなく地域として”行くと、対応が早くなります。

3. 証拠を残す(ただし無理はしない)

- 可能なら、
日時・場所・相手の特徴・行動内容
をメモしておく、警察が動きやすくなります。
 - ただし、相手を刺激するような撮影や接近は避けてください。
-

やってはいけないこと

- 直接注意し続けること(相手が逆上する可能性がある)
- 相手を撮影して追いかけること
- 個人で身元を調べようとする

安全を最優先にしてください。

なぜ警察に相談してよいのか

「撮影しているだけでは違法ではないのでは？」と思うかもしれませんが、“不審行動で住民が不安を感じている”というだけで警察は動けます。

特に最近は、

- 下見目的の撮影
 - SNS 配信目的の迷惑行為
 - 住居侵入や強盗の前兆行動
などが問題になっており、警察も敏感です。
-

次の一歩としておすすめ

あなたが動くなら、まずはこれが一番安全で効果的です。

「町内で不審な撮影行為が続いているので相談したい」と警察署の生活安全課に電話する。

必要なら、警察への相談内容を一緒に整理することもできます。
「どう伝えればいいのか」など、続けて聞いてください。